

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ダイナスターⅢ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ダイナスター3

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4 インチ

番

研磨剤

比較対照ボール：ダイナスター

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

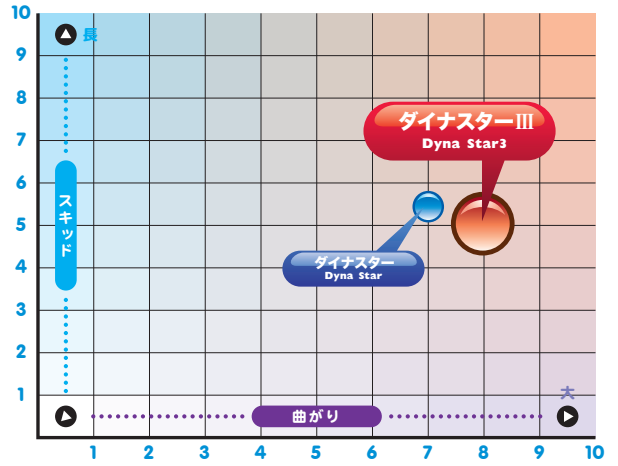
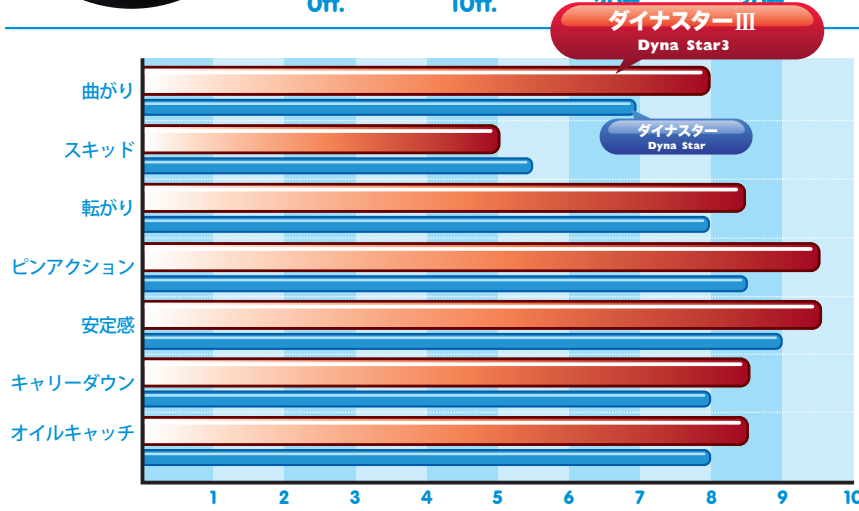
4 インチ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ダイノタン社から新ブランドして立ち上げたDyna Starシリーズは、発売当初から快進撃を続け、トーナメントでの好成績と全国でのHIゲーム更新の立役者として数多くの報告を受けました。Dyna Star1・2とも短期間で完売に至り、これほどまでのDyna Starシリーズの注目度が高いのも、EBONITE5社のテクノロジーを集結・駆使したスペックは、興味・想像をかきたてられるものであり、「投げて確かめたい」というボウラーの欲求を満たす魅力のある性能であることにほかなりません。

今回その条件を満たす性能で仕上がったDyna Star3は、ミッドエリアの安定した曲り始めと終わらない軸移動でミディアム～ミディアムヘビーなコンディションまでをカバーします。リアクション特性は急激に向きを変えるフリップ系のイメージというよりは、やや曇っている表面からくるスキッド中から感じる持続的なキャッチをピンヒットまで伝える軸移動タイプと言えるでしょう。

コアの特性を活かしながらコントロール性能を高めるためにあえて選択した表面加工により、オイルに対しての過敏さを最小限にして、扱い易さを含め1ランク上の領域に仕上げられています。またミッドエリアから安定した軌道を描けるためキャリーダウンの影響度も少なく、Dyna Starシリーズ最高峰とも言えるピンアクションを加えると、もうこのDyna Star3に死角はありません。

なぜこの組み合わせの仕上がりなのかは、投げた貴方は必ずパフォーマンスをもってその理由を知ることでしょう。そしてその評価は多くの結果を導き出し、伝説の1ページへと加わります。

過去追求できなかったパフォーマンスはDyna Starシリーズだけが実現できる「共有」が可能にしてくれるのです。

特記事項

ミッドエリアでの安定したキャッチと軌道の読みやすさ。そして何より今回もコアとカバーの組み合わせが絶妙。あの当時実現させられなかった領域がパフォーマンスとして表れます。